

No.	分野	意見の概要	回答
1	期間	「本計画は10年計画とします」とあるが、期間を短縮し、より早急に実行して頂きたいです。	再編期間の短縮については、実施計画の参考にさせていただきます。
2	必要性	「はじめに」に記されているように、再編統合は避けられないことだと認識している。	学校再編の必要性については、少子化と人口減少が加速している中で、児童生徒の教育環境の維持・向上のために必要と考えます。再編の長所を最大限生かし、教育環境の更なる向上が必要と考えます。
3	必要性	統合の必要性が分かりません。小学校が遠くなったりするメリットありますか？小さい所はより良い人間関係が築けたりすると思います。数字的なメリットより人間を育む重要性・また安全性を考慮していただきたい。	
4	必要性	私の子どもたちは大井小学校時代、複式学級であったが、決して勧めるものではない。過小規模校はなくした方がよい。	
5	必要性	新しい学校が、小規模校で、統合を考えなければ、いけなくなっているのはもったいない。結局は阿南市の財源の問題で、統合しようとしてるとしか思えない。	
6	必要性	まとめとして、今回の再編統合の素案を見て再編統合は免れないこととはいえ、教育環境を第一に考え、阿南市周辺地域への再編統合という、これまでと全く違う発想で検討していくことが、阿南市全体が発展する基礎になるのではないかと考える。	
7	規模	複式学級でよく言えば異年齢学級活動とも言えるかもしれませんが、あまりに少人数なのは、子どもたちがかわいそうに思える。	学校規模については、同じ学校で学ぶ友人が増えることは、教育上の効果があると考えます。

No.	分野	意見の概要	回答
8	基準	1学級当たりの児童生徒数は20人以上でなく、20人までは適正だと思います。	1学級の児童生徒数については、現在の学級編成基準でクラス替えの出来る学級規模を継続的に維持するためには、20人以上が理想であると考えます。
9	基準	阿南市教育委員会が考える学校の適正規模から40年後の学校数は小学校4～6校、中学校2～3校、となり規模だけで地域の特性を考慮したものではない。基本計画の教育理念と適正規模が合致していない。	再編の基準については、小学校・中学校共に全学年でクラス替えができる規模を目指すことにしています。基準を参考に将来の人口減少を見据えた検討が必要と考えます。
10	基準	基準に合わせると、中学校は4校、小学校はそれに合わせて再編してバス等の送迎を考えてもかなり難しい感じで、基準に合わせるならば、市は案を考えていると思うので示すか、再統合の基準では、何を最重視するかを強く示した方がよいと思う。	再編の基準で最重視する内容については、小学校・中学校共に全学年でクラス替えができる規模を目指すことが挙げられます。基準を参考に将来の人口減少を見据えた検討が必要と考えます。
11	基準	データの出し方であるが、計画は2032年度までの10年計画としている。ということは、これから変動が起こり得るし、また増えることを願うが、各学校区の出生数、年齢別人数をもとに10年後の各学校に想定される人数が一応出せるはず。そういうデータを基にすれば、よりリアルな議論ができるのではないだろうか。内容について、再編統合の基準を小学校12学級以上、中学校を9学級以上としている。これで見ると、現在でも基準を満たしているのは小学校では、富岡小学校、見能林小学校、平島小学校、羽ノ浦小学校の4校、中学校では、阿南中学校、阿南第一中学校、那賀川中学校、羽ノ浦中学校の4校しか該当しない。また素案4「学校再編の方法」に記載されている「既存の学校区を基本とした再編統合」という計画と矛盾している。基準を下げるべきである。再編による効果が1～6と列挙されている一方、マイナス面への言及がきわめて少ないことも問題である。とりわけ義務教育の学校再編統合は少子高齢化を加速する。このことへの言及がまったくない。「学校再編と家庭・地域との関係」では、文科省の推奨する「コミュニティスクール制度」が目立つだけである。また「公共交通機関やスクールバス等による交通手段の利用を確保できるよう努めます」とのいかにも頼りない言葉があるだけである。そもそも学校再編統合の波は、学校再編だけでは乗り越えることは不可能である。少子高齢化にブレーキをかける国の総合的な政策があって初めて将来を担う子どもやそれを育む家庭・地域の健全な発達があるもの。阿南市も市民とともに文字通りリアルなプランを練ることと並行して、この切実な声を国に向かって伝えるべきであろう。	人口推移については、データを提供する予定です。また阿南市総合計画等と整合した取組を進めていきます。 再編の基準については、小学校・中学校共に全学年でクラス替えができる規模を目指すことにしています。基準を参考に将来の人口減少を見据えた検討が必要と考えます。 学校再編については、長所を最大限に活かせるよう取組を進めていく必要があると考えます。

No.	分野	意見の概要	回答
12	教育環境	1学級15人の方が一人ひとりに目が届いた指導ができ、団体(グループ)活動も可能である。一人ひとりの考えを大切にすることで、部活等で得意な面を伸ばすため、校区外の学校に進学する子が増えたため、残された子どもたちが少人数で苦勞し、統合の危機となっている。また、逆に、少人数であるために認められ楽しんで学校生活を送る子もある。一人ひとりを大切にするためにも、少人数であっても、学校は存続すべきであると思う。	小規模校の長所については、その長所を小規模校以外での学校でも活かせるよう取り組むことが必要と考えます。
13	教育環境	私自身は、大井小学校から加茂谷中学校大井分校で、小学1年生から中学3年生まで、ずっと28人で学校生活を過ごしてきましたが、ハンデと感ずることなく、かえって同級生のみならず、上の学年、下の学年の方とも、ある程度交流のある間柄になり、良かったと思っています。かえって、高校時代のほうが、親しくなる人が少なかったと思います。学年10人位なら、クラスのいろんな役割が増えて、かえってよい面がたくさんあります。教育内容も、小規模校では、先生方も一人一人の理解度や性格、状況をつぶさに把握できるので、きめ細かな指導が可能になります。小・中学校の統廃合で、スクールバスの運行とか、公共交通機関の利用について、書かれていますが、現実的ではありません。机上論で、スクールバスが何台必要か、費用がいかほど必要か、面積の広さからして現実離れしています。まして、公共交通機関の運行状況や路線網を考えると、まさに机上論で、負担はすべて父兄に掛かってきます。学校単位での部活動については、岐路であると考えます。スポーツ少年団とか文化団体に委ねるクラブ活動への転換期で、先生方の負担軽減の道筋をつける時期に来ていると考えます。部活動については、将来的には学校は関わらない、とすると大きく変わり、それぞれの個性を伸ばせるようになっていくでしょう。特に、小学校の統廃合は最小限にとどめるべきです。先に述べた通り、学年10人前後、校区で50人位では統合すべきでなく、小規模校の良さを発揮すべきと考えます。中学校はある程度仕方ない面もありますが、阿南市の中山間地域では、通学範囲のこと、通学距離をよく判断していただきたいと思います。スポーツや文化芸術の分野で、特別に伸ばしたい親御さんは、県内・県外の有力中学・高校に進ませることは否定しません。それぞれの親、子どもの意思で選択することだと思います。	
14	教育環境	発達に凸凹のある子どもが多く、被虐待児においては心に相当な傷を負っている子どもが多い。その子どもたちには加茂谷という自然が残っている地域で受ける教育は、心に傷を受けてきた子どもたちにとって何よりも、その心の傷を癒すことができる環境であると考えています。現代の社会において、さまざまな環境の変化、家族のあり方の変化にも理由が一因しているといえようが、子どもたちの発達に凸凹がある子が増加し、特別支援を受ける子どもが多くなっていることから、自然が残っている教育環境で義務教育を受けることが、その子どもたちの心の発達において、ソフト面の充実に加えて何よりも第一に考慮すべき事案であると考えます。だからこそ、阿南市中心部に再編統合よりも、阿南市周辺地域への再編統合をし、子どもたちのハード的な教育環境を確保していくことが大切なことであると考えます。	教育環境については、学校再編において大切な要素になります。ソフト面・ハード面の最適な環境整備を進めていくことが重要です。

No.	分野	意見の概要	回答
15	教育環境	再編による効果、多いに疑問あり、3.2持続可能な地域社会の実現、3.3思いやりと豊かな心を育む教育など効果が出ると思われない。教育よりも財政負担の軽減のための再編計画と疑ってしまう。もう少し夢や希望のある再編計画にできないですか？	学校再編の目的については、教育環境の維持・向上が最優先と考えます。
16	地域	「地域社会全体が～ 活力あるまちづくりを実現していこうとする願い」教育委員会がまちづくりまで、踏み込んでいる点は多いに評価できる。私たちのNPO法人加茂谷元気なまちづくりは、地域の活性化、人口問題、公共交通問題等、持続可能なまちづくりに取り組んでいる。	持続可能な地域社会づくりには、人材の育成が重要と考えます。
17	地域	市職員、教職員は「市民のため、子どもたちのため」と言っているのをよく聞かすが、OBの人たちの社会貢献をする人たちは少ないと思う。子どもたちに言っていることと、行動を同一化してもらいたいし、その様な人材教育もしてもらいたい。	
18	地域	阿南市総合計画で地域の活性化があげられているが、地域に小中学校がなくなると、一気に地域は衰退すると思う。せめて小学校は残すべき。	地域活性化については、市の各種計画との整合性を図ることは非常に重要であると考えます。
19	部活動	小規模であるのに、団体競技の部活が多すぎる。また、選ぶ余地がない。他校との合同になるが、練習の送迎等、他の保護者が行ってくれる事もあるが、仕事とのかね合いもあり、保護者への負担がとても大きい。個人競技、文化部等の充実を望む。	部活動については、現在その在り方について国等で議論が進められておりますが、学校再編による影響も大きいと考えられます。
20	特別支援	インクルーシブ教育を行うには積極的に外部助っ人の関わりが必要だと思えます。	インクルーシブ教育については、ご指摘のとおり、支援者も多様な人材が必要と考えます。
21	特別支援	特別支援または配慮を必要とする児童・生徒が一気に増え、自分に合った教育を受ける権利を奪われたり、成長に悪影響を受けたりする子どもは急増している。この支援について早急に対応するのが先ではないかと思う。	再編により特別支援教育の充実が期待されますが、現状においても特別支援教育の推進を行っていく必要があると考えます。
22	自然災害	小学校、児童クラブ、公民館と建物があるが、地震の時に小学校へ避難することになっているが、公民館を建て替え、小学校、児童クラブの子どもたちが安全に過ごせるようになってほしい。地震がおきた時に安全に避難できる場をととのえて欲しい。	児童・生徒の安全確保については、非常に重要であり実施計画に反映が必要と考えます。
23	自然災害	地震、津波対策をしっかりとしてほしい。	自然災害への対応については、児童・生徒の安全確保は重要であり、実施計画に反映が必要と考えます。また、避難経路の確保と防災教育の徹底は非常に有効であると考えます。
24	自然災害	津波の懸念は避難経路確保と防災教育の徹底でどうにかならないか。	

No.	分野	意見の概要	回答
25	安全対策	阿南市の教育施設は老朽化がはげしいが対策が取られないまま、子どもたちが危険にさらされている。安全を確保してほしい。	学校をはじめ教育施設の安全対策については、継続した取組が必要であると考えます。
26	小中一貫教育	小中一貫することのメリットがよく分からない。過小規模の学校であれば、縦の関係の深まりや教師の子ども理解の共通認識等あるだろうか。適正規模になれば、不必要では？人数が増えるのだから、逆に、共通理解しにくくなると思う。	小中一貫教育の導入については、実施計画の参考になると考えます。
27	小中一貫教育	椿町中学校存続してほしい。小中一貫教育といった形でも、椿・椿泊と一緒にできないか。	
28	制度	再編統合の対象は阿南市立の小中学校となっていますが、小規模校の統合ではなく、大規模校の生徒が、小規模校に通うようにしては？学区制を止めて、希望の学校へ通えるようにしては？吉井小学校は残したい派なのですが、羽ノ浦小の中でも、人数が多すぎると感じている人はいるのでは？	大規模校から小規模校へ児童生徒が移ることについては、阿南市では導入されていない制度ですが、法令では学校選択制という制度があり、様々なアイデアとして検討することは重要と考えます。(学校選択制は保護者の意見を聴取した上で、教育委員会が就学校を指定する制度です。また学校選択制の中で、従来の通学区域を残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく市内のどこからでも就学を認めるものが特認校制で、特認校制度の中でも小規模校へ通学を可能とするのが小規模特認校制度です)
29	制度	加茂谷の吉井小はコミュニティスクールを20年以上前から行っています。制服・体服がないのも、学校と地域が話し合って決めたとし、町づくりを進めています。かたつむり、遺跡、移住など、特色にあふれた地域です。統合するにしても、吉井小学校は残して欲しいです。小規模特認校制度を使用して残し、他の地域から来る生徒の登下校手段を考えてはどうか。	
30	制度	小規模特認校制度を活用して、小規模校の特性を生かした魅力を発信し、阿南市内に通う子どもたちが希望すれば通学できるシステムを行うと、小規模校の児童生徒の人数が増えるのではと思う。小規模校がある地域は、すでに特色ある取り組みをし町おこしをしている場所、これからやろうとしているところもあるはずなので、小規模特認校制度が十分活用できるはず。	
31	制度	小規模校同士の統合だけではなく、羽ノ浦地区などの大規模校から小規模校へ移ることも検討してほしいです。(大規模校は教室が足りないなどの問題もあり、現状の環境に満足していない児童やその保護者で、希望制にするなど)吉井小は地域とのかかわりも大切にしており、故郷を大事にする気持ちが育っていると思う。小規模ならではの児童ひとりひとりへのケアの充実度や、学校の持つ個性を最大限に生かしていき、児童は通う学校を選べたらいいと思います。この案については、統合の区切りとなる5年後、10年後ではなく、適正規模の学校運営ができるよう、できるだけ早く検討すべきと考えます。	

No.	分野	意見の概要	回答
32	通学	小学生の通学時間で、60分以内とありますが、60分かけて通学する距離は安全なのでしょうか？学童が統合する可能性があるのと、通学の距離もさらに長くなり、安全とは言えないと考えます。安全に通学できるよう考えて欲しいです。	スクールバス利用については、実施計画を策定する際に検討することが必要です。また安全対策は非常に重要と考えます。
33	通学	スクールバスを使用してほしい。	
34	通学	遠方になるようなら、スクールバスが必要と思う。	
35	通学	学校区については、あまりに統合してしまうと、通学が遅くなるなどの問題もあるので、難しいところですが、それなら、通学バスなどを検討も必要かと思えます。	
36	通学	スクールバスでの登下校となると、部活後の帰りが遅くなり、暗い夜道は歩かせることはできない。生徒が安全に登下校できる所まで配車してほしい。	
37	通学	再編成となると、スクールバス等、やむを得ない事だと十分理解している。スクールバスの充実を願う。また、中学生に関しては、できるだけ自転車での通学を望むが、その際の道路の安全、スクールゾーン等、危険箇所の確認等しっかりしてもらいたい。	
38	通学	学校周辺の公共施設や通学路の安全が確保された場所というのは、市街地である人口の多い地域よりも、自然の残っている阿南市周辺地域である田舎の方が、その場所の確保は容易であろう。また、面積が広い、例えば加茂谷地域からスクールバス等の交通手段を使うより、面積の狭い隣町からスクールバスを利用して通学する方が、経済効率が良いともいえよう。スクールバスを利用して、面積の広い周辺地域、例えば加茂谷地域であれば、スクールバスに乗車する場所までもが遠くなる家庭も出てくるのではないかと予想され、1軒1軒送迎するのは、とても時間がかかることになる。逆に隣町などから加茂谷地域へのスクールバスを利用するのであれば、乗降場所から各家庭までの距離も短くなり、スクールバス利用者は多くなるとはいえ、利用時間は逆に短くなるのではないだろうかと思う。	
39	通学	仮に二中に統合になったら、スクールバスは出してほしい。	
40	通学	樺泊からスクールバスを出してほしい。	
41	通学	安全確保は「努める」ではなく必須として下さい。	児童・生徒の安全確保については、非常に重要であり実施計画に反映が必要と考えます。

No.	分野	意見の概要	回答
42	通学	学校・学童の周辺の道が狭い為、車が対向ができるくらいの道端が欲しいです。	周辺の整備については、担当部署との連携を進めることが必要と考えます。
43	通学 教職員	現在の編成を変更する必要はない。市内中心部だけに学校を集約すると、遠距離の学生は通学時間が長くなり、部活動や勉強に充てる時間が減少するので良くない。集約により運営校数を減らすことで税金が浮くことも利益として考えられるが、大人数学校は生徒・保護者・教師同士などそれぞれで問題が発生しやすい。再編を考える前に、運営方法を考えた方が良いのでは？	通学については、児童生徒や保護者の負担にならないことが重要です。 学校再編については、教職員の働き方改革にも大きく影響があるものと考えます。
44	放課後児童クラブ	児童クラブは各校にあるので、再編で児童クラブも再編になる。学校が遠くなる家庭についてはクラブへの送迎も負担になると思うので、考慮していただきたい。	放課後児童クラブについては、子ども子育て支援事業計画に基づき事業を推進しており、担当部署との連携を進めることが必要と考えます。
45	放課後児童クラブ	放課後の児童の安全を守るため、学校再編と一緒に学校敷地内に学童の施設も併設してくれることを望みます。	
46	放課後児童クラブ	平島小学校敷地内に児童クラブを建てて欲しいです。	
47	放課後児童クラブ	子どもたちの事を考えると、学校の敷地内を希望します。津波など何かあった場合の為に安全な場所を選び、今の所で開設しているので、安全面も考えてほしい。	
48	放課後児童クラブ	学校から学童まで安全に通えるようにしてほしい。	
49	放課後児童クラブ	学校の空き教室、敷地内に学童が入る事で、送迎(クラブへの)、タブレット活用、学校との連携の元でメリットが大きい。早急に実現してほしい。再編してからとなると、小学生は卒業してしまう。まずは、管轄の小学校在活用できるように取り組んで欲しい。国や研修では、学校との連携の必要性等、講義があり、推進していると思います。校長先生の考え方もあり、受け入れが困難であるというはおかしい。児童クラブだけのお願いではむずかしい！市が率先して欲しい。	
50	放課後児童クラブ	学校敷地内に学童を設立したいと何年も前から陳情しています。市長とも対談して前向きなお返事を頂いたが進まない。	
51	放課後児童クラブ	再編すると、家と学校の距離が遠くなり、仕事をしている親の迎えを学童で待つ児童が増えると思います。子どもの安全を考え、敷地内に学童を設置することの標準化を願います。	
52	放課後児童クラブ	学校内に児童クラブを作ってほしいです。安全で通いやすい所をお願いしたいです。	

No.	分野	意見の概要	回答	
53	放課後児童クラブ	統合してしまうと、学童も統合し、利用人数が40人以上となる可能性があり、利用できない児童が増えるのではないかと思います。統合はしないほうがいいと思います。安全面を考えると、学校の近くに学童を作って頂きたいです。		
54	放課後児童クラブ	学校の空き教室で学童できませんか？		
55	放課後児童クラブ	放課後児童クラブは、現在の小学校単位で保護者が運営していますが、もし、小学校が統合するのであれば、必ず、小学校の中に放課後児童クラブの施設を入れて頂きたいです。		
56	放課後児童クラブ	小学校の敷地内での施設を設置。子どもたちの下校時の安全も考えて。		
57	放課後児童クラブ	学校再編に関連して、必ず放課後児童クラブは必要になってくると思います。その際、学校と隣接して施設を建設して頂いた方が、保護者にとっても、子どもたちにとっても、コミュニケーションがとりやすく、利便性があると思います。		
58	放課後児童クラブ	学校が長期の休みの時に、学童利用児童が公民館のイベントやプール利用ができる参加枠が欲しい。		
59	放課後児童クラブ	児童クラブが併合されるようになるなら送迎は必須。民間の力を入れる。		
60	放課後児童クラブ	学童は乗降場所に設置してください。家に近い所に一旦帰らせてあげてください。夏休み、春休みに子どもらが歩いて通える所に学童をおいてください。		
61	放課後児童クラブ	学校の中、または、敷地内に学童を設置してほしいです。建物が古い、トイレのにおいが気になるので、考えて欲しいです。		
62	放課後児童クラブ	学校内に施設を造ってほしい。建物が古い、トイレが老朽化していて、狭いしにおいも気になります。新しくして欲しい。		
63	放課後児童クラブ	民間に委託で、1万円以内。役員をしたくありません。大変すぎる。		放課後児童クラブ運営上のご意見として参考にさせていただきます。
64	放課後児童クラブ	学童の役員の保護者負担が多すぎる。事務員を外部に委託したくても、週1~2 3時間とかで来てくれる人材がいらない。支援員不足は常の問題。少し市の方でもあつせんしてくれたら助かります。		
65	放課後児童クラブ	学童に、市の職員さんをおいてほしい。学童事務と保育一部と人材確保の仕事をしてほしい。		

No.	分野	意見の概要	回答
66	地域資源	<p>・地元の加茂谷地区や、椿地区の現状については少々現状把握し、今後への懸念を抱いていましたが、阿南市南部の中心地との認識を持っていた橘小校区や津乃峰小校区の現状(児童の少なさ)は衝撃でした。東京一極集中の地方版かと、大都市を含め日本全体の少子高齢化社会を目の当たりにした次第です。しかしながら嘆いてばかりはいられません。基本的には、この現況報告書には阿南市の教育政策における教育の在り方と、素朴な市民感覚とのズレも感じました。少子化の現在においては、それぞれの地域において、登下校風景、発表会や運動会などに置いて、以前ほどの地域との関りが薄れてきていますが、それでも、地域活動の拠点であることには変わりありません。市町村合併や、学校統合により、役所や学校が無くなった地区は、一気に地盤沈下が進み、同時に過疎化が一気に進みました。一方、地区の方も、自分の子や孫と同居していない(or卒業した)家庭の方は学校への関心が薄く、行事などに参加しない傾向が顕著です。</p> <p>・加茂谷地区吉井小学校校区では、「加茂谷鯉まつり」だけの加茂谷からの脱却をめざし、10年前に、地域活性化のために、地域団体「加茂谷へんろ道の会」を結成し、地元の資産である遍路古道を整備し、その魅力を発信する活動をしてきました。「加茂谷元気なまちづくり会」は衰退していく中山間地の農業活性化策として、空き農家、空き農地を活用した移住者受け入れを進めてきました。</p> <p>・平成24年までの吉井小学校の出前授業の詳細は知りませんが、平成25年からは、我々は、毎年、出前授業として遍路道授業を行い、地区に残る古い遍路道の歴史的価値や特異性、意義について小学校で話してきました。加茂谷地区は自然豊かなところで、固有種アナムシオイガイ、透明感のあるケショウマイマイをはじめ、希少かつむりの宝庫でもあり、若杉谷の現地での自然観察会を続けています。近年は、国史跡指定になった若杉山辰砂採掘遺跡も現地での総合学習を行っています。平家落人のお墓や火打石、加茂谷の文化財の解説の授業もしています。各地区の小学校でも、類した授業、歴史や農業体験等々行っているのですが、校区が広くなると、それぞれの地区に根ざした特有の授業は少なくなり、先生方も地域への関心が薄れていくことになるでしょう。遍路道のこと、希少かつむりのこと、辰砂遺跡(旧水銀鉱山)、加茂宮ノ前遺跡、固有種のナカガワノギク、平家落人のこと、火打石、お松権現、空海ゆかりの太龍寺等々、授業の中で繋ぎ、地元の資産を知り、地元で育ててきたことが、小中学校再編によって先生も生徒も希薄になり、親世代の関心も薄れていくことに危惧を覚えます。</p>	<p>地域にある自然・文化・伝統・産業等の地域資源については、教育資源として学校教育をはじめ社会教育においても活用することで地域の活性化につながると考えます。現在取り組まれている活動は市全体としても非常に参考になると考えます。</p>
67	地域資源	<p>加茂谷には、宮の前、若杉山辰砂採掘遺跡、アナムシオイガイ、へんろ路、大龍寺等歴史と文化、自然環境等全てが整っている、地元民は活性化人口問題、交通問題、大学生の受入等取組み、教育面からも最高の地である。学校は街中だけでなく、田舎の学校も考えるべきだ。</p>	

No.	分野	意見の概要	回答
68	移住 地域	<p>大井小学校は、1994年(平成7年)3月31日で休校となりました。休校になって27年になります。現在、大井小学校に行くのは、選挙の時だけです。休校になって一番感じるのは、小・中学校が教育だけでなく、地域の文化・体育活動、地域コミュニティの維持、また防災の拠点機能を有していることです。再編計画でクラス替えのできるようにするということが大きな柱になっているようですが、私も大井小学校で6年間1クラス38人でクラス替えはありませんでしたが、そのことで特に不利益を被ったということはありませんでした。クラス全員が強い絆で結ばれていたように思います。田舎の小規模校には、小規模校特有の素晴らしい所もあり、移住者の方に一つのセールスポイントでもあります。既存の小・中学校を維持・存続させることは、これからのコミュニティ維持、移住促進の基本インフラとして欠かせません。学校再編にあたり、児童数・生徒数を基本に計画を進めることは市当局にとって必須条件でしょうが、それと併せて地域コミュニティの拠点機能維持といった地域性も加味した再編を進めて欲しいと思います。それには、阿南市周辺部の人口減少阻止対策、地域活性化対策、移住促進対策を進め、他施設(公民館、住民センターなど)との有機的な複合施設化や地域諸団体と連携した地域に開かれた学校づくりを目指して欲しいと思います。地域住民団体の地域活性化の取り組みによる地域コミュニティの拠点としての小・中学校の維持・存続活動に対し、市当局からもご支援いただき、教育環境の維持・充実と併せ地域と一体となり、加茂谷地区の現在の学校存続が可能となるような、再編計画が進められるよう希望します。</p>	<p>移住については、地域活性化につながる重要な取組です。地域活性化が進むよう市の各種計画との整合性を図ることは非常に重要であると考えます。学校が持つ地域の拠点機能については、学校再編により生じる影響への対応策を検討する必要があります。</p>
69	地域 移住	<p>加茂谷地区においては、衰退していく地区に活力を取り戻すべく、「加茂谷元気なまちづくり会」が主体となって、移住者を積極的に募ってきました。空き家、空き農地を確保し、多くの若い層の都会からの移住に繋げています。このことは、阿南市でも当該部局以外にはあまり知られていません。まして、他の地区の市民は、この加茂谷地区の努力の詳細を知らないと思います。積極的な移住者受け入れにより、地区の人口減少や放棄農地の拡大に歯止めを図っています。移住家族の方々は、田舎暮らしがしたくて、また、自然豊かな土地で子育てをしたい、自らの手で安心の作物を育てたいとして、中山間地の加茂谷地区にやってきました。少々の不便は織り込み済みです。そして子育てに一生懸命です。小・中学校再編(吸収合併)により、小学校が、中学校が遠くなることにより、送迎が更に負担になる(学童クラブも)ことは明らかです。彼らは都会からやってきました。彼らは生まれ育ったところではないので、ドライです。校区が広がることにより、校区再編をきっかけに、再び阿南市から、加茂谷地区から離れはしないかと心配しています。</p>	

No.	分野	意見の概要	回答
70	統合案	小学校はそのままで、中学校は統合をお願いしたい。福井中学校は二中へ。	<p>具体的なお提案については実施計画の参考になると考えます。また、それぞれの学校の特長を活かすことについては、学校再編に反映させていくことが重要と考えます。</p>
71	統合案	適正規模に近づけるため、また、校舎の老朽化も見据え、阿南第二、福井、椿町、新野が合併することが望ましいと思います。	
72	統合案	一中・加中校区で小学校を2つ中学校一つに、阿中校区は見能林に津乃峰を戻し、二中・福井中・新野中・椿町中校区でバスを使った送迎で小学校中学校を一つに、羽ノ浦中・那賀川中校区で小学校は町別に一つずつ、中学校を一つにするのが基準には近いのではと。	
73	統合案	過小、小規模校での統合を早急に進めるべきだと思う。小学校で少ない人数→中学校で増えたとしても、小規模校に変わらない所は多い。その中で(少人数)新たな人間関係を築くことは、困難であることも多い。人数が少ない事は、関係が密でメリットも多いが、逃げ場はなく、選択できないデメリットが多い。	

No.	分野	意見の概要	回答
74	統合案	<p>防災・南海トラフに強い学校への集約提案「阿南防災小学校計画」の提言・提案 <提案理由> ・津波の危険の無い小学校へ集約 ・南海トラフに向けての日頃からの防災取り組み ・「新野町道の駅」計画で「防災の拠点」を作りたいとの話がありました。「防災の拠点」と考えるならば、今ある建物を有効利用する考え方で提案します。新野町は津波の来ない地域です。シームレス民泊でも有名な町です。新野町ならではの「日本初」の防災取り組み小学校事例としてアピールできる提案だと思っています。</p> <p><提案内容> ・防災拠点として、現在ある新野東小学校、新野東幼稚園（現在は新野東児童クラブ・学童が利用中）を拠点にします。 ・児童数減少により将来の小学校統合を東小学校に集約した計画です。津波・川の氾濫・山崩れ… など、災害時に子どもたちが安心できる学校を考えた場合、新野東小学校がとても優れた位置に建っています。統合の提案として、新野町の2つの学校を1つに統合する考えではなく、近隣町で水害などの危険がある町の子どもたちを安全な小学校に統合することにより、災害時でも子どもたちは常に安全な場所に避難できていることとなります。 ・災害拠点として優れた環境の小学校です。新野東小学校はとても優れた環境です。プールの水をトイレなどで利用。よく災害時に体育館に大勢の人が避難している光景を見ますが、向いに幼稚園があることにより、高齢者や幼児がいる家庭は東幼稚園にも避難が可能です。隣にホームセンターがあります。日用品、薬品、生活用品、飲料水… など、災害時に必要な物資があります。（事前に話し合う必要はあります。） ・東小学校の隣には空き地があり、簡単な貯蔵庫設置も可能です。（コンテナなど…） ・学校名は、「阿南防災小学校」「阿南防災第一小学校」などを提案します。</p> <p><防災少年少女の育成提案> ・日本初の取り組みとして、東小学校在学中に防災授業、防災放課後学習などの防災学習など専門的授業も行います。授業内容には災害時の対応、AED学習、防災テント学習、消火学習、防災食学習… など、防災全般を子どもの時から多く学ぶことにより、災害時の落ち着いた対応ができるようになり、日ごろの防災意識を高めます。 ・特徴として小学校の卒業式で卒業証書と一緒に児童には「防災受講終了書、認定書」などを授与します。</p>	
75	統合案	<p>樺泊小を樺小と一緒にしてほしい。統合後の樺泊小は、かもだ岬温泉と何かしら連携できたら良いと思う。</p>	

No.	分野	意見の概要	回答
76	統合案	加茂谷地域のように阿南市周辺の人口が減少している地域においては、どこの学校と統合されるのであろうか、というのが一番の関心事である。この考え方は、人口が少ない地域の学校が、人口の多い地域の学校に再編統合されるということである。しかしながら、その考え方を、教育環境が第一であることを最大の条件にするのであれば、人口が少ない地域に、人口が多い地域の学校が再編統合する、と考えることはできないだろうか。人口が少ない地域とは、いわゆる田舎であり、言い方を換えれば、自然が残り、昔からの文化風習が残り、阿南市としても、その文化遺産、伝承していくべき風習が残っている地域ともいえる。いじめがなく、不登校のない学校にするには、ソフト面の充実も必要ではあるが、阿南市には自然が残り、その地域に伝承されている文化、風習が残っている地域もたくさんあり、その自然環境・文化環境の中で、義務教育を受けることは、教育環境を第一に考えるという条件には必須であると考ええる。	教育環境については、学校再編において大切な要素になります。ソフト面・ハード面の最適な環境整備を進めていくことが重要です。具体的なお提案については、実施計画の参考になると考えます。
77	統合案	樺泊小学校、樺小学校の統合を望む。保育所で一緒だった子たちをわざわざ過小規模校に振り分ける必要があるのでしょうか。樺小に統合してほしい。この頃で言う教育上の効果はその方があると思う。既に、樺小、樺町中学などと同じ行事・活動はあり、地域の特色を活かした活動も、今まで同様に行う事は可能だと思う。福井小学校・阿南二中への統合のような話を聞いた事はあるが、樺地区で学校がなくなってしまうと、いよいよUターンや移住などの定住の可能性も無くなってしまう。地区別人口の将来動向でも、樺地区から人がいなくなるのは、現況からでも、明らかではあるが、そういう意味でも子どもがいる限りは、小学校だけでも残してもらいたい。地震や津波などを考えて、樺小学校ではだめなのなら、今、現在は一体どういう状況なのでしょう。危ないけど、とりあえずと言うことでしょうか。避難経路や耐震化ではダメなのでしょう。	自然災害への対応については、児童・生徒の安全確保は重要であり、実施計画に反映が必要と考えます。具体的なお提案については、実施計画の参考になると考えます。
78	再編時期アンケート	基本計画をR4に策定、R5の実施計画で具体的な対象校を示すとのことですが、実質再編統合するのはいつからと考えているのか？それによっては現在の保護者は対象から外れてしまうことが考えられる。現在の小中の保護者+0歳児からの若い人及び地域の意見を尊重すべきではないでしょうか。	再編時期については、基本計画を策定後、令和5年度以降に策定する実施計画に反映される予定です。アンケートについては、令和4年7月に小学校・中学校に加え就学前の保護者へのアンケート調査を実施しました。

No.	分野	意見の概要	回答
79	住民説明会	子どもの教育は学校や親だけから学ぶものではないでしょう。通学や地域の行事から学び、郷土愛が育まれていくものと思います。地域に魅力がなければダメですが！そのためには地域の合意形成の時間は最低2年間が必要と考えます。	皆様の意見を幅広く聴くことについては、それぞれの地域で住民説明会を開催し、広く意見交換することが必要です。 学校再編の合意形成については、様々な意見を話し合う時間を確保する必要があると考えます。
80	住民説明会	保護者にとったら、再編され、小学校が遠くなれば、通学などに不安になる人も多いかもしれない。特に緊急下校になった場合など。しかし、子どもにとったら、少人数で学ぶより、大人数で学ぶ方が社会性などが身につくかもしれない。また、該当する地域の人たちやいろいろな思いをもっていると思う。地域によってメリット、デメリットは異なるので、その地域の声を聴いてほしい。	
81	住民説明会	短時間で判断できないので、特に意見なし。	
82	住民説明会	様々な理由、現状から学校再編が検討されることは自然な流れであることは理解しています。多くの子ども、大人に関わる計画だからこそ、丁寧で慎重な話し合いの場を何よりも大切にしたいと思えます。再編が行われることになった場合、一番に影響を受けるのは子どもたちの心や身体、生活だと私は思うので、大人の都合で押し切る形で計画が進められることだけは絶対にあってはいけない事であると思えます。そのために、説明会や情報提供が必ず市民に行き届くよう、誰もがわかる形で説明会等の日程のお知らせをしていただきたいです。また、地域住民・保護者等の意見の反映の意向は示されていますが、学校に通う当本人である子どもたちの意見も大事にして欲しいと思えます。大人、子ども、みんなで考える大切なことだと思うので、話し合い、聞き合い、共に考える場と時間を大事にしていきたいと心からお願いしたいです。	皆様の意見を幅広く聴くことについては、それぞれの地域で住民説明会を開催し、広く意見交換することが必要です。その際に分かりやすい周知方法が必要と考えます。 子どもたちの意見を尊重することについては、家庭での子どもたちとの対話等を通して保護者の意見に反映いただくことも大切であると考えます。
83	住民説明会	今秋より阿南市全域で行われる説明会にプラスして、動画で説明を行って配信してみたり、特設HPを作り、素案の解説やQ & Aに答えたり、パブコメの返答を掲載してみるのが良いのではと思う。市民の関心が高い教育に関する事なので、ぜひ行って欲しい。	住民説明会以外の取組については、動画等の周知手段は有効であると考えます。
84	住民説明会	本当の意味できめ細かな情報提供(国や他県の動向、会議での協議の内容など)と進捗状況の見える化は必要ですが、具体的にどのようにするのですか？ホームページに上げるだけでは、周知はできません。数多くの説明会等が必要では！	説明会等の開催については、必要に応じて開催していく必要があると考えます。
85	子どもたちの意見	今回、保護者へのアンケートを行っているようだが、子ども自身が再編成におけるアンケートに答えてもらうことが重要だと思う。教育は、子どもが主語であるはず。子どものことを考える大人ありきで考えるのではなく、子ども自身の声を拾ってみることも、確かな学力の一環になると考えます。	子どもたちの意見を尊重することについては、家庭での子どもたちとの対話等を通して保護者の意見に反映いただくことも大切であると考えます。
86	協働	結局、現況子ども自体がいなくなってしまう可能性が高く(樺地区)今やれる事の最善を地域の人々が考えて実行するしかない。	学校再編については、地域住民の協力と理解が重要であると考えます。

No.	分野	意見の概要	回答
87	協働	関係者とは誰を指すのでしょうか？各地域の代表者は？協働する相手も具体的に示してください。再編統合はそれぞれの地域の将来が大きく左右されます。各段階で、地域(若い人や各種活動している人を含む)で話し合う時間が必要です。	関係者や協働については、特定の人だけではなく広く地域住民の協力と理解が重要であると考えます。
88	教職員	少人数の方が、先生も教えやすいのでは？吉井小の先生は、初め厳しそうでも、次会うと楽しそうに授業をしてくれる。	学校再編については、教職員の働き方改革にも大きく影響があるものと考えます。